

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	コミュニケーションの原点を探る : 言語以前の行動伝承「あかんべー」を使って
Author(s)	小林, 照子
Citation	児童の言語生態研究 , 18 : 58 - 65
Issue Date	2018-10-27
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046610
Right	
Relation	



コミュニケーシヨンの原点を探る

——言語以前の行動伝承「あかんべー」を使って——

小林 照子

1. はじめに

言語習得以前の子どもと向き合った時、私達はどうかやって呼びかけ、語りかけているのか考えてみた。名前を呼んでみたり、ばあーと声を出してみたり、タンタンと舌を鳴らしてみたり。幼な子の気をひこうとして、表情や音声に工夫をこらす。幼な子に反応が見られると大喜びで繰り返す。工夫をこらすといっても、一番多いのは「ばあ」ということになるだろう。1967年に誕生した、あかちゃん絵本『いないいないばあ』が日本で一番売れている絵本として出版され続けているのも自然なことである。「ばあ」に反応が得られた時こそ、コミュニケーシヨンが生まれる瞬間であり、そこには、気のぶつかり合いが生じていると言えよう。

小学生に向かって「ばあ」はないが、1年生の言語活動にかかわる授業を計画する際、他の学年以上に、氣と氣のぶつかり合い、無

意識につき動かされるエネルギーを大事に考えたいと思う。一般的にコミュニケーシヨン能力の育成というと、「話し上手、聞き上手になるための技能習得」をめあてにした授業を考えることが多いが、私共は、そういった技能ではなく、技能を練る子どもそのものの意識を耕すところに焦点を絞りたいと考えた。

2. なぜあかんべーなのか

生前、上原先生が言われたこと。

—— 音声言語の基本条件を考える時に、人間関係における対応が、「あかんべー」の一言に尽くされる。要点として、その一声が問題である。だから、その一声のときに表情が出る。その表情のときに、その姿態が問題であること。その姿態が場面と対応しているということ。——

今回、1年生の「構え」の授業として、

「あかんべー」を取り上げたのは、コミュニケーシヨンの原点が、見い出せると確信したからである。子どもが一つの状況に追い込まれた時に、説明を越えて、体が反応し、体と声と表情が一つになって相手に発するのが、「あかんべー」である。「あかんべー」とは赤目のことで、おおむね拒否の意味があるというが、子ども達は「あかんべー」という言葉の意味を理解している訳ではない。子ども達の感情が無意識に反応しているのだし、五感、生理感覚が反応しているとも考えられる。この感覚は、一個人のものではなく、何かとつもない永い年月の中で培われて来たもののような気がする。それは、意識して、考えた上での反応・行動というよりも、今ある、相手と自分との関係を立ち切ろうとする、あるいは作ろうとする生の心象表現ということになるだろう。

「あかんべー」をする時、子ども達は、その音声とその姿態の照合を楽しんでいるよう

にも見える。言葉の意味を介在させずに直接反応として相手に通じ、相手との関係を動かすことができるのだから、面白くないはずはない。「人間の思考基盤は、知識の知恵ではなく、感覚の知恵である。」という上原先生の言葉が浮んでくる。

3. 授業作りにあたって

「あかんべー」には、言葉としての明確な概念がない。言葉以前の生の心象表現だといってもよい。そこには概念で思考する前の、感覚の知恵がある。子ども達は、与えられた知識や概念などは全く無関係に「あかんべー」をしている。1年生なら、どの子ども一度は「あかんべー」をしているであろう。そして、その定義や意味づけはできなくても、「あかんべー」を発する状況や相手を心得ているし、その場の雰囲気や、相手の反応も知っていると思う。

1年生の子ども達が「あかんべー」を発する際の心象を予想してみた。「呼びかける」「からかう」「はぐらかす」「居直る」「すねる」「拒否する」「意地悪をする」「逃避する」など。

今回の授業では、子ども達が「あかんべー」を発する場面を尋ねつつ、2枚組みの絵や、4コマ漫画を用いて、子ども達の心象を確かめたい。授業者が、子ども達の「あか

んべー」をどう認識するかという点については以下の5点を掲げる。

- ①対人関係における対応がこの一声に尽くされているか。
- ②この一声に込められている心象を、子ども達がどう把握しているか。
- ③この一声と表情が一体であるか。
- ④この一声と表情に姿態が伴っているか。
- ⑤この一声と表情と姿態は場面にどう対応しているか。

子ども達が発する「あかんべー」それぞれについて、この5点を確認する。そして、「あかんべー」を発した瞬間の対人関係の把握の違いに注目したい。それぞれの子どもの見られた「場面と姿態の統合」の違いに、「構え」の発達の実態が見られることを期待している。「あかんべー」の授業をする事により、子ども達は対人関係の中で、人々との「間」、すなわち人間（じんかん）を意識することになる。今までは、無意識世界から湧き上がってきた「あかんべー」を、意識化させることを、コミュニケーション能力育成の出发点として、授業を計画した。

4. 子ども達の反応（授業記録より）

〈あかんべーを引き出す〉

泣いた顔をひっくり返すと笑い顔になる、

うちわを使いながら、子ども達の「あかんべー」を引き出そうとした。目の前の相手の感情に働きかけるという場面を共有するまでは、手さぐりの時間が必要だった。

T 赤ちゃんです。
赤ちゃんは どうしてる？

C 多数 泣いてる。

T にこにこしてもらいたいんです。

のん 泣かんでーって言う。

T じゃあ、やってみて。

のん 泣かんでー。（うちわに描かれた泣き顔に向かって。）
T （うちわを、ひっくり返して、笑い顔を出す。）

T 他には？
みほ 泣かんでよー。
まき もう泣かないでね。早く泣きやまして。

T はい、じゃあ、今度はね。赤ちゃんを泣かすためにはどうする？
としお いじめる？

T 他にどうする？
C けんかする。
C つねつちやう。

T つねつちやうだったらかわいそうだね。他には？

のん お兄ちゃんがね、赤ちゃんのガラガラを取った。

C けんかする。

T 赤ちゃんはけんかできないよね。他にはどんなことをしたら泣くでしょう。

りゅう注射する。

T 注射ね。触らないで泣かせるにはどうする？じゃあね。先生がならめっこしたら泣いちゃったの。どうしてでしょう。

のん 怖かったから。

T この顔じゃ、怖くないでしょう？どんな顔だったら怖い？

れい (前に出て、上目使いでにらみ、怖い顔をしてみせる。)

C多数 怖くないい。

T じゃあ、もうちよつと怖い顔ってどんな顔？

としお (目を少し横にずらしてにらむ。)

C多数 怖くないい。

T 先生はね。手とか使いました。

C (両手を使い、口を左右に広げて怖い顔をする。)

こうき (指で両方の目尻を引っ張って怖い顔をする)

みほ (両目の下まぶたを指で引き下げ、赤目を出す顔をする)

T ありがとう。声も出してきて。

C ベーとか。

みほ ベーっ。

T もっと怖い顔は？何か出してもいいよ。

としお (両手の人差し指で目をつり上げ、親指で口の左右を下げ、歯を出した顔をする。)

T 歯が出たね。

かよ (両手の指先をそろえて、下まぶたを引き下げ、白目をむいた顔をする)

C あっ白目だあ。

C多数 おぼけみたい。

T 歯の他に何か出ますか？

C ベロ。

C つの。

こうき (先にとしおがやった顔をして、口からベロりと舌を出す。)

みほ (両手の指先で、両方のほっぺたをつまんで前を見る。)

T ほっぺが出たね。赤目が出て、舌まで出すのを何んて言うか知ってる？

C うらめしやー。

T (舌と、指で赤目を出す絵を描き) きれなんて言うか知ってる？

C あっかんべー。

T よく知ってるね。びっくり。あかんべ？あっかんべ？どっち？

C全員 あっかんべー。

T 今日の勉強はあっかんべーです。あっかんべーをする時、身体はどうなりま

すか？ちよつとやつてもらおうかな？

C多数 いいよー。

T みんな立って。

C一同 (後列の女子5名の他は全員立つ。のんは、Tの呼びかけで、すぐに立ったが、隣りの数人が立ち上がらないのを見て、座ってしまった。)

T セーの。

C一同 あっかんべー。(立ち上がった子ども達は、それぞれが、あっかんべーをする。舌を出さない子もいた。)

T 今度は、後ろの先生達に見せてあげて。セーの。

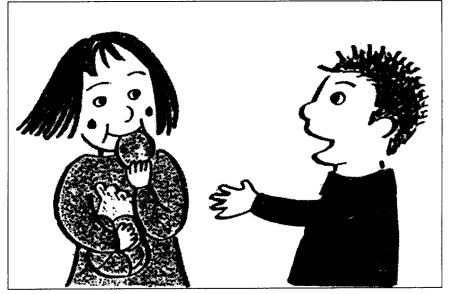
C一同 あっかんべー。

言語以前の生の「あかんべー」を引き出すには予想通り時間がかかった。言葉を知らない赤ちゃんに向き合うという設定にも難しさはあった。泣いている赤ちゃんを笑わせるという設定では、動かなかった構えが、笑っている赤ちゃんを泣かせるという設定で、動き出し、あかんべーの世界に入ることができた。

「あかんべーの違いに気付く」

子ども達に「あかんべー」の体感も体験もあることを確認してからは、2枚組の絵を使い、「あかんべー」を実演する活動に入った。

T じゃあ次は、この漫画を見て下さい。第1弾。この子なんて言ってるの？



絵 1

C おかしちようだいって。

T こっちの人は？

C ダメーって。

C あっかんべーって

T 前に出てやってよ。(女の子の絵を指して)「おかしおしいなあ。」

C 一同 ちよつとちようだい。

C こうき あっかんべー。

(続いて、なお、みほも、代わる代る前に出て、「あっかんべー」をする。そのたびに、子ども達は笑い声を上げて反応した。)

T では、今やってみてもらった「あっかんべー」をビデオで見てみましょう

(今の実演を録画した「あかんべー」の映像を3人分、次々に観る。子どもたちは身体をよせ合ったり、手をつないだり、声をあげて笑った。)

T 3人のあかんべーを比べてみよう。だれのが上手だった？

C なおさん。

T どこが上手だった？

C 悪者みたいだった。

T 怖かった？

C だれのも怖くなかった。

T 先生はこうき君のが怖かった。みんなは、やだーって言う代わりに、「あっかんべー」って言うてくれたんだよね。それでは、2枚目の絵を見せるね。みんなのと比べて、どっちが怖かったかな？

C なおさん。

C 絵の方が怖い。

T 今のは、いやだ、のあかんべーだったね。では、次いくよ。第2弾。赤い洋服の子は何言ってるのかな？



絵 2

C 野球よして。

C (入れてという方言)

T 黄色い洋服の子は？

C ダメ。

C チビだからダメ。

T 赤い洋服の男の子はどうしたかな？

C あっかんべー。

T やってみてくれる？

(女の子を指名したが、恥ずかしがってやろうとしない。座ったまま、声は出さずに、右人差し指で赤目を出し、舌を出す「あかんべー」をする。)

(すると、座っている子ども3人が座ったまま次々に声を出して「あかんべー」をする。)

T 前に出てやってみようか。

C こうき あっかんべー

T こうきくんどんな気持ちであっかんべーしたの？

C こうき やな感じ。

C としお やな感じ。

T どうして？

C としお 入れてもらえないから？

T みほちゃんやってみる？

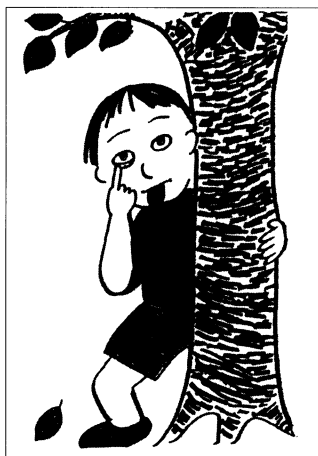
C みほ (さつと立ち上がり、前に出て) あっかんべー。

T これは、野球入れてもらえなくて、やな気持ちあっかんべーだね。赤い洋服の子はどこで、あかんべーしたのかな？

としお 追いかけて行ってあっかんべー。
では、絵を見せるね。



絵 3



絵 4

としお かくれてあっかんべー。
T どうして？
C こわかったから。
T なるほど。
C ながられたらやだから。
みほ けんかした。
T 第1弾と第2弾を比べてください。これは、同じあっかんべーかな？

C いや、目が違う。
C 向きが違う。目玉の向きが違う。
T なるほどね。そこまで考えてなかったなあ。

のん こっちはね、(第1弾を指して) 赤目がいっぱい出てる。そっちは(第2弾を指して) ちよっとしか出てない。

T なんでそうなっているんだろう。

C 引っ張りすぎてる。

T そう。こっちは、あっかんべーの勢いが良いんだよね。

としお (おかしの) 袋も上に上げてる。

T ここを見て(第1弾を指して) や

だあ。あっかんべー

C やだあ。あっかんべー

(TとCは、ほぼ同時に言う。)

T この人何者？(「あかんべー」をして
いる子の絵を指して。)

C 多数 悪者。

T 悪者のあっかんべーだから力も強いのかな。こっちは(第2弾) どっちが悪者？

C 大きい子。

T 「よせて」と言ったのにダメと言った
大きい子達が悪者だね。

C くやしかった。

T 悔しいあっかんべー。ではこっちは何

C あっかんべーかな。

C あげないあっかんべー。

T 第1弾は「おかしあげないよ。」って
する悪者があっかんべーをしているね。
第2弾は、「入れてあげない」と言っている
悪者に対して「あっかんべー」をしている。
このまま帰っちゃうのくやしいうから
ね。みほちゃんが言ってくれたんだよね。
けんかしてあっかんべーしているって。
第1弾と第2弾の違い分かったかな。

全員で立ち上がり(座ったままの子もいた
が)先生方と参観者に向かって「あっかん
べー」をしてから、子ども達の表情がやわら
かくなった。「あかんべー」が発生する絵を
見ると第1弾でも第2弾でも第一声は「ダ
メー」という言葉だったが、一度「あかん
べー」を発した後は、前に出ても、座った
ままでも、「あかんべー」を連発するようにな
った。

2枚組の絵を使う前に、「あかんべー」を
したことがあるかと聞いたところ、「やった」
「やったことがある」と声も手も拳がった。
先生方と参観者に向かってやるときに、座っ
たままで、「あかんべー」を発しなかった女
の子も手を挙げた。

子ども達がさかんに言ってくれたのは、兄
弟姉妹のけんか、友だちとのけんかだった。
「弟がイーダしてきたから、お返しであか
んべーをした。」「友だちにむかむかしてあか

んべーをした。」と、日常生活の中で感情がぶつかり合う体験が話題になったところで、子ども達は活発に話すようになった。教師が「なんでむかむかするの？」と聞くと、「それは、いろいろあるけん。」という答えが返ってきた。

ここまでで、「あかんべー」には、①拒否、②居直り、すねる、の違いがあることを、認知することができた。しかし、言葉のない絵の中に登場する人物の関係を会話に置き換えて「あかんべー」を発するようにしたところには課題が残った。細かい描写で描かれた人物の表情、身体の大きさ、白目や赤目の大きさなどに敏感に反応した様子から、子ども達は「あかんべー」の呪術性を感じていたのではないかと思っている。

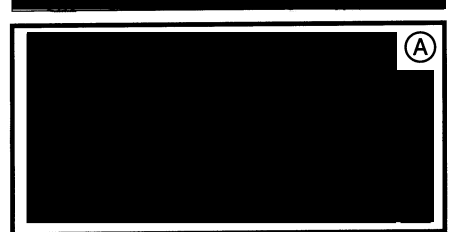
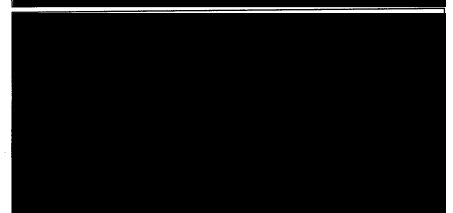
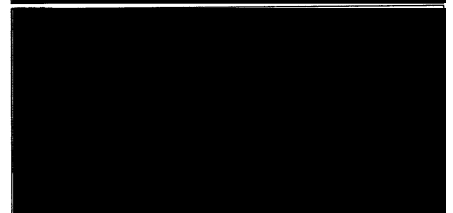
〈あかんべーをかける〉

「あかんべー」が意識化したことを、再確認するために、4コマ漫画を使った。4コマで構成された場面と時間経過の中で、登場人物の感情がぶつかり合う。そこで「あかんべー」を使うことができるかを見届けようとした。

T みんなで一緒にやります。

I コマ目。わかめちゃんとお友だちが2人でおままごとをしていました。

C よしてって言ったの。



T そしたら、わかめちゃんはなんて言ったの？

C だめって言ったの。

T そしたら、長ズボンの男の子はなんて言ったと思う？

C 入れてよ。

T 次は2コマ目。これはどうしたの？

T としお 助けちゃったの。わかめちゃんを。

T 半ズボンの男の子は、なんて言って助けたの？

C やめて。おどかした。

T 半ズボンの子が長ズボンの子をおどかして、わかめちゃんを助けた。違う考えもあるのかな？

C かった。

T 長ズボンの子をぶったからその子が泣

C けたのかな？

T 意地悪したからかった。

C 長ズボンの子をぶったからその子が泣

T けたのかな？

いちゃったのね。それで、わかめちゃんの友だちが「なによ、かわいそうじゃない」とけた。そうしたら、わかめちゃんはどうしたかな？

C かった。

T 今日は、なんの勉強だったの？

C あつかんべー。

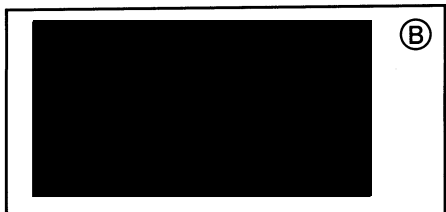
C わかめが、あつかんべーした。

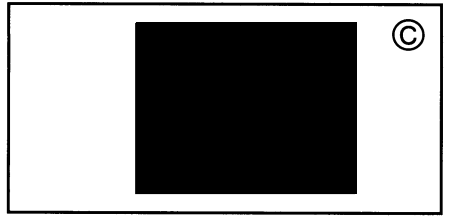
T だれに、あつかんべーしたのかな？

C (前に出て、長ズボンの子を指す。)

T わかめがあつかんべーすると、

C べーすると、





C もっと大泣きした。
(B)

T ではこの女の子は
どうしたのかな？

C この人もあっかん
べー。

T だれに？

C わかめちゃん。

T ここでいい？（わか
めと向い合わせに
する。(C)

C ちがう、ちがう。

T ここ？（わかめと背
中合わせにする。(D)

C わあー。ちがう。

ちがう。

C （わかめと女の子
を向かい合わせに戻
す。(C)

T ここはだめ？

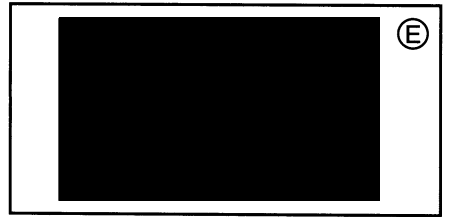
（わかめとはなして背
中合わせにする。(D)

C ひとりであっかん

べー。

T 1人であっかんべーになっちゃう。
（わかめと女の子を向かい合わせにする
と。）

C 反対、反対。



T どうしたらいい
の？

C 女の子と、わかめ
が一緒になって、長
ズボンの子にあっか
んべーしている。(E)

C はんたい。

T どれがいいかな。(C)

C （女子が5人以上手
を挙げる）

T たくさんいるね。

T どうしてわかめと女の子があっかんべー
になっちゃったのかな？

C この前に、わかめちゃんが長ズボンの子
に、あっかんべーしたから、女の子がしか
えしでわかめちゃんに、あっかんべーした。

T 半ズボンの男の子はどうしているのか
な？

C ないている。大きなき。

T どこにいるの？（Aの配置に4人を置
く。）こういう風になりました。

みほ ちがう。

T 置いてみて。

みほ （男の子2人を向かい合わせにし、わ
かめと女の子を背中合わせにする。）
としお なんて？相手がおらんよ。
かな （わかめと女の子がそれぞれに、長ズ

ボンの男の子に向かって、あっかんべーを
している。(E)

りゆう（泣いている男の子2人を向かい合
わせにして、女の子2人は向かい合わせで
あっかんべーをしている。）

としお（半ズボンの男に向かって、女の子
2人があっかんべーをしている。）この子が
長ズボンの子にかわいそうなことをしたか
ら、こうやって2人で、あっかんべー。

T 今日は、あっかんべーのお勉強でし
た。あっかんべーは、「ダメ」とか「くや
しい」とか、言葉を使わなくても「あっか
んべー」で伝わるんだね。暑いのに、いっ
しょうけんめい勉強してくれてありがた
う。これで終わります。

授業開始から1時間近く経過しての活動
だったにもかかわらず、子ども達の反応は良
かった。さすが山口県の子ども達はねばり強
い。座ったまま、あっかんべーをしなかつた女
の子達も心では参加していたことが、ここで
分かった。驚いたのは、場面の状況や、登場
人物から発しているであろう声を、言語化し
なくても、4コマ目の人物配置（提示した
時、4コマ目は白紙だった。）を正しく把握
していたことである。絵は隠されていても、
しつかり見えている子どもが何人もいたこと
には驚いた。

4人の関係を、改めて考え直すそうとする
と、混乱してしまうことも分かった。論理的
に起承転結を考えて4人の配置を決めるので
なく、1コマごとの関係に反応していたら、
わかめと女の子が向かい合ってあかんべーす
る絵が見えたという感じだった。いつ、だれ
に教えてもらったか定かではないが、あかん
べーはできる。でも、本性が丸出しになって
しまうので、人前でやるのはひかえた方が良
いかも知れない。など、無意識の奥に閉じ込
めていたあかんべーが湧き上がったとい
うことなのかもしれない。開始から90分が
過ぎようというのに「もつとやりたい。」と
いう子ども達に、山本先生が、次回続きをや
ることを約束して、授業を終えた。

5. あかんべーを失わないように

今回の授業に参加した大学院生の感想であ
る。

「今日授業後の記念撮影で人生初のあかん
べーをしました。やったときに、意地悪と
か、相手を見下していじめるとか、そういう
のとは全然違う、快感というか、自分が開け
る感覚を味わいました。」

「ほくも初あかんべーでした。とても不思
議な感覚でした。昨日から、どんな感覚なん
だろうと想像しながら、やるのがちょっと怖

くて、恥ずかしさとかもあるのか、何かが自
分の中でそれをさせなくて。ところが記念撮
影で実際に身を置いてみると、とても心地良
くて、その心地良さというのを、共通した感
覚として共有していて、その心地良さを発言
させる行動伝承『あかんべー』という、型
のようなものが残っていることに感動しまし
た。」

彼らは、子ども時代に「あかんべー」をす
ることなく大人になったという。感情処理
力、言語表現力、共に優れていたからなの
か、友達に自分の感情を、「あかんべー」で
ぶつけることがなかったらしい。そんな彼ら
が、記念撮影とはいえ、「あかんべー」をし
た時に、うまく言葉には表せないが、快感
だったという。

「授業中、木の陰で『べーっ』ってやって
いる絵を見て、一番元気のある感じの男の子
が『悪者を倒してやる』って、小さい声で
言ったのがすごくおもしろくて、呪術性をこ
の子感じ取っているのかなって。弱い立場に
あっても、収まりきれないエネルギーの方向
があるのがうれしかった。それを聞いている
周りの子ども『そういうふうと考えていいん
だ』って、自分は決してやられたままじゃな
いぞって。その感覚があることがうれしかつ
た。後ろで座っていた女の子たちも、まだ引
いていない。高学年女子は、男子が騒ぎ出す

と、スーッと引いてしまつて「あの子ども達は子
供だから」みたいに言うことが多いから、何
か冷たい感じの引きが芽生えそうところで
『あかんべー』で共有しちゃうのがいいと思
う。私は今日、久しぶりに『あかんべー』を
やって、子どもの頃変身遊びをしてうれし
かった感じを思い出して、印象に残りまし
た。」

山本学級の子ども達にとつて「あかん
べー」は、まだ伝統芸能化していなかった。
コミュニケーションの原点としての感覚を失
わないためにも、あかんべーの授業を国語カ
リキュラムに入れる必要性を感じた。

(八王子市立由井第一小学校教諭)

公開研究授業

平成18年8月23日水曜日

山口県光市上島田小学校

(1年 山本妙子学級)

男子7名 女子14名 計21名

児童の言語生態研究会会員によるティームティーチ
ング

T 授業者 中川

C 児童(発言が多い児童はひらがなの仮名で示
した)